

# 令和3年度 「学校評価アンケート 後期」について（12月）

京都市立洛水中学校

今年度2回目の学校評価アンケートを行いました。12月に、本校の教育活動を振り返り、今までの取組について保護者の皆さまの評価やご意見をお聞きすることで教育活動をより充実させたいと考え、2回目の「学校評価アンケート」を実施させていただきしました。保護者の皆さまには、88名（41.5%）のご回答をいただきました。たいへんお忙しい中、ご協力をいただきありがとうございました。その集計結果から振り返りをしましたので、ご報告させて頂きます。

## 京都市の目指す子ども像

### 「伝統と文化を受け継ぎ、 次代と自らの未来を創造する子ども」

「まちづくりは人づくりから」。今から約150年前、明治維新による都市衰退の危機の中、「竈金（かまどきん）」と呼ばれる私財を出し合い、日本初となる地域の子どもたちが学ぶことのできる小学校（番組小学校）を創設し、まちの発展を教育の力に託した京都の町衆の思いです。以来、京都の人たちは、その思いを受け継ぎ、子どもを社会全体で温かく包み、育んできました。こうした先人たちの伝統と進取の気風で培われた京都ならではの「はぐくみ文化」の下、未来社会の創り手となる子どもを育むという崇高な使命を担うことへの誇りをもち、市民ぐるみ・地域ぐるみで「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育を共に進めていきましょう。

## 京都市立洛水中学校 学校教育目標

### 『社会で活きる力の育成』

#### 目指す生徒像

- ・ 自ら学び続ける力を持った生徒。
- ・ 命を大切にし、思いやりの心を持った生徒。
- ・ 心身ともに健康で粘り強く生きる生徒。

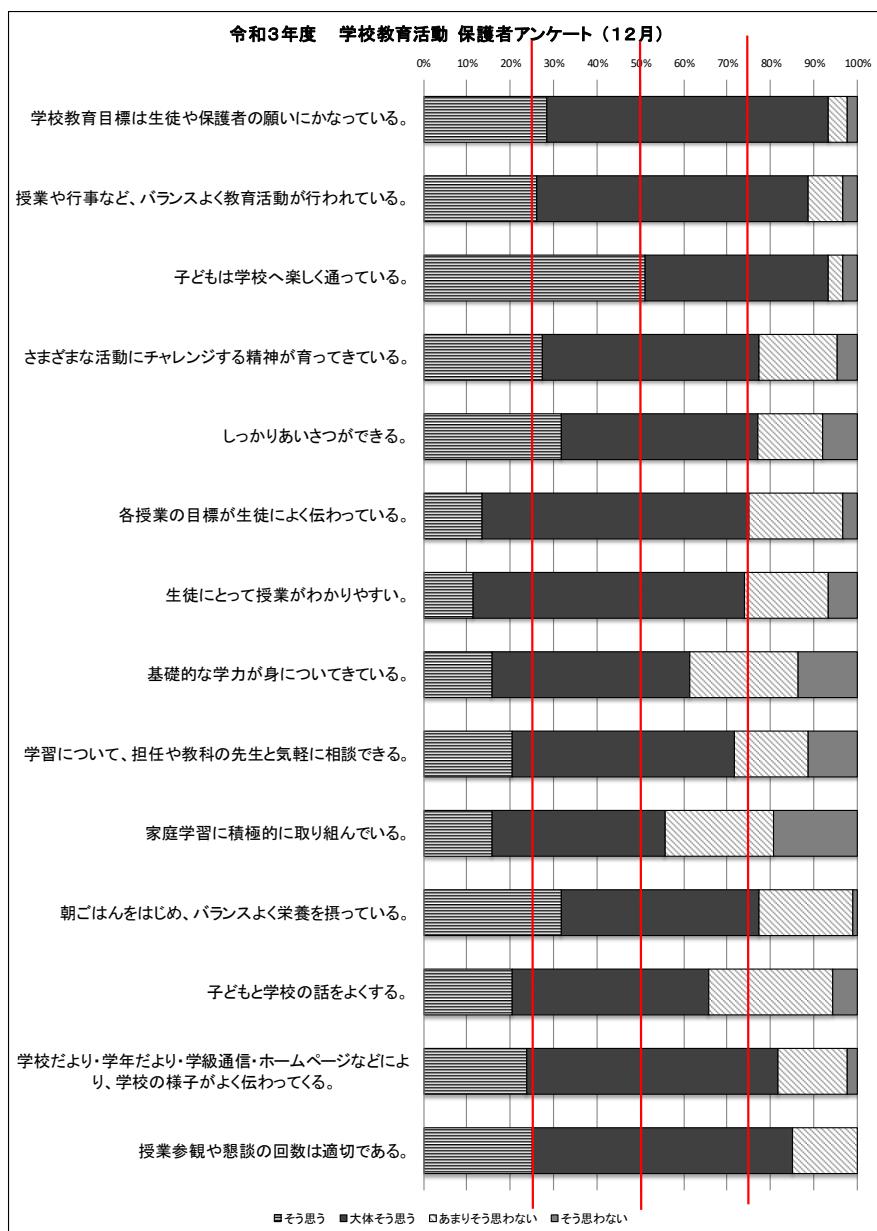
#### 目指す教職員像

- ・ 確かなビジョンと専門性を高め、協働できる教職員。
- ・ 愛情と豊かな感性で、生徒一人一人を大切にする教職員。
- ・ 生徒・保護者・地域とつながり、責任を自覚し活動できる教職員。

#### 目指す学校像

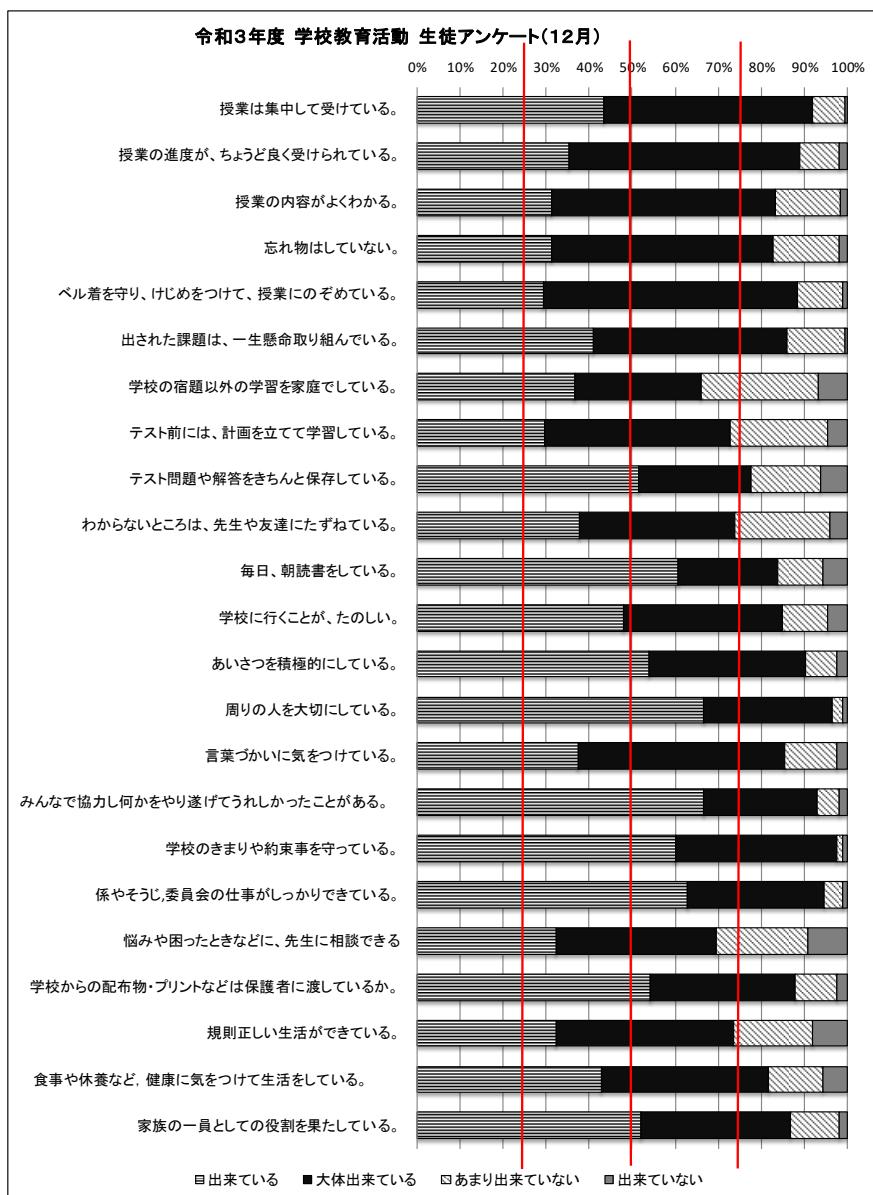
- ・ 生徒の命を守りきる学校。
- ・ 支え合い、高めあう、活気に満ちた学校。
- ・ 地域の学校として、信頼される学校。

## 保護者アンケート結果より



今回は、縦に3本ラインを入れ全体を4等分し、4択の回答比較をしやすいようにしました。生徒アンケートに比べると、「そう思う」が全体的に低く、25パーセントを超えていないものが7項目ありました。「そう思う」「大体そう思う」をあわせて50%は、すべての質問で越えているものの、75%を超えていないもののが5項目ありました。個別には、コロナの影響もあるかもしれません、「学習について担任や教科の先生と気軽に相談できている」は7月に比べ、そう思うが7.9%減少し、「家庭学習に積極的に取り組んでいる」は4.0%減少しています。全体的に学校へは楽しく通っているものの、家庭学習等では以前よりやや低調な結果になっています。今後は、基礎基本の定着と学力向上に対し一層力を入れていきたいと思います。

## 生徒アンケート結果 より

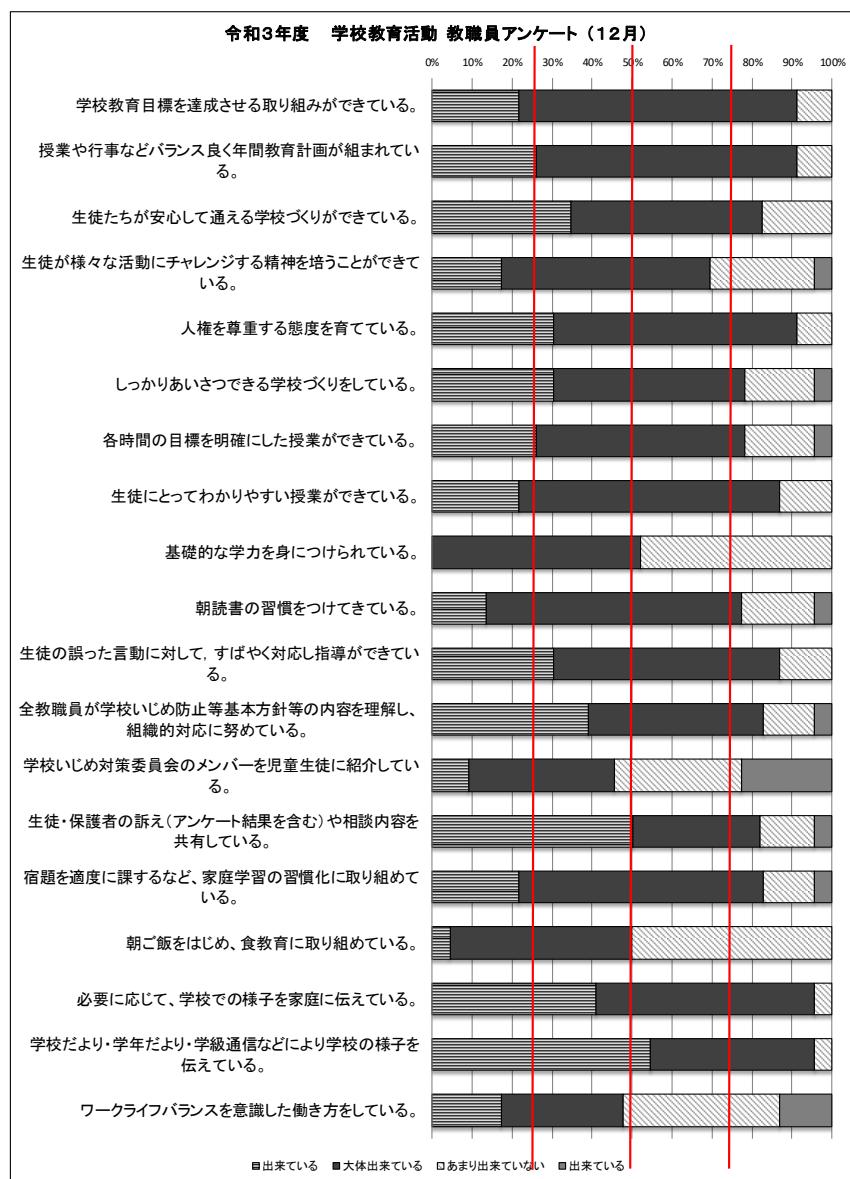


7月と同様に、すべての質問で「出来ている」が25パーセントを超える、50%を超える質問9項目ありました。「係やそうじ、委員会の仕事などはしっかりできている」は94.5%、「周りの人を大切にしている」は96.5%と高い結果です。一方、「授業は集中して受けている」については、7月に比べてそう思うが8%が増加していますが、「授業の内容がよくわかる」は7.6%減少しています。

コロナ禍での欠席や学級閉鎖もあり、授業をしっかり受けようという雰囲気は強くなっていると思います。しかし、オンラインを利用した授業配信などを取り入れたクラスもあり、理解度ではポイントが下がり、従来の対面授業の方が効果的であるようです。学習習慣の定着や計画的な学習等では引き続�력を入れていきたいと思います。

また、先に行った、全国学力・学習状況調査でのアンケート結果では、3割の生徒が朝ご飯を毎日食べていなかったり、ゲーム等の時間が全国平均より多いとの回答もあり、食教育や家庭での時間の使い方なども指導をしてまいりたいと思います。

## 教職員アンケート結果より



学力向上では、年間を通して朝読書や金曜日の一読一筆、自主学習ノート等の取り組みを行っており、授業においては、1人1台のタブレットを積極的に活用した授業展開しています。また、必要に応じて家庭に持ち帰り、自学自習やレポート提出、欠席時のオンライン授業配信、学級担任との連絡等にも使い、今では文房具のひとつになりつつあります。今後は、実態に即したより効果の上がる活用をして推進していきたいと考えています。

また、「ワークライフバランス（仕事と生活の両立）を意識した働き方をしている」については、肯定的な回答が半数弱であり、時間外勤務が多い教職員もいます。今後、組織として業務の精選と効率化を目指した働き方改革と個々の意識改革も一層推進してまいりたいと思います。

新型コロナウイルスの終息が見えない中ではあります、今後とも、家庭、地域、学校の連携を密にとりながら、教職員一丸となって教育活動に取り組んで参りますので、一層のご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

